

日本を襲った度重なる災害

被災地の皆様

お見舞い申し上げます

高知県立大学同窓会
しらさぎ会理事会

今年はいろいろの災害にみまわれました。

大阪北部地震、北海道胆振東部地震、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）フェーン現象による連日の猛暑、台風12号、15号、20号、21号による豪雨など多くの災害にみまわれました。

日本全域とっていいほどの被害を受けております。被災された卒業生がいらっしゃるのではないかと安じております。しかし、卒業生お一人ひとりの詳しい情報が把握できなくて気がかりです。

報道からの情報により、土砂災害・川の氾濫・浸水・豪雨の復旧工事や作業も円滑に進んでいない状況を知っていますが、同窓会しらさぎ会として何かお役に立てることはないかと理事会で話し合い、思案しているところです。

ご意見等がございましたら、各支部の支部長さんを通じて、または、しらさぎ会事務局まで直接ご連絡いただきますよう、お願い致します。

5月19日に高知県立大学同窓会しらさぎ会総会を開催し、本年度の活動計画が承認されていましたが、その後、次々と襲ってくる災害に対し、同窓会しらさぎ会の目的にあった災害支援をすることを理事会で話し合いました。

その一つとして、高知県立大学共同災害看護学専攻・グローバルリーダー養成プログラムで学ぶ学生たちが、発災間もない被災地に行き、被災者の健康ニーズ調査の支援を通して被災者の安心・健康をサポートするという学習活動をするための支援金として、20万円を助成しましたことをご報告いたします。

平成30年7月豪雨被災地でのボランティアセンターでの救護活動

看護学研究科共同災害看護学専攻 4回生 野島真美、1回生 杉本和幸



7月12日～19日までの8日間、高知県立大学DNGL 1次隊として、土砂災害の被害が甚大であった愛媛県宇和島市にて、宇和島市災害ボランティアセンターに救護班を立ち上げ医療スタッフとして活動を行いました。

愛媛県宇和島市では今回の豪雨災害で11の方が亡くなり、最も被害が甚大であった吉田地区では吉田浄水場が被害に遭い、6,568世帯で断水が起きました。また、土砂災害の影響で床下や床上まで土砂が流入したお宅も多くありました。さらに、吉田地区の特徴としては、独居高齢者や高齢者夫婦世帯が多く、生活再建とともに災害時要配慮者支援に関しても早急に取り組んでいく必要がありました。このような状況を踏まえ、宇和島市社会福祉協議会では、7月10日より災害ボランティアセンターを立ち上げ、

県内外からのボランティア募集を始めました。そこで、私たちは災害ボランティアセンターの立ち上げ支援と救護班の役割をいただき、支援者支援を軸とし活動を展開してきました。私たちは、災害ボランティアセンターで救護班を立ち上げるにあたり、「熱中症予防」「感染症対策」を目標とし活動を展開しました。熱中症予防に関しては、ボランティアさんの休憩時間の確保と水分・塩分摂取の確保を重点的に促し、従来の駐在型ではなく巡回型の形を取り入れ、ボランティアさんが活動されている地域や休憩場所に赴き、健康管理や環境整備を行いました。次に、感染症対策に関しては、被災地では泥撤去が主な活動であったため、ボランティアさんの健康管理と合わせて災害ボランティアセンターの汚染予防のため消毒剤を使用した長靴洗浄や手洗い・うがいを徹底しました。今回、1週間の活動を行ったなかで、熱中症での救急搬送や感染症の発生も認められず、また、巡回型の体制を取り入れたことでボランティアさんの作業状況も確認することができ、状況に即した介入ができたのではないかと考えます。

平成30年7月豪雨被災地での活動を振り返って

看護学研究科共同災害看護学専攻 3回生 佐々木康介、2回生 河村木綿子

7月19～24日に高知県立大学DNGL 2次隊として、愛媛県宇和島市社会福祉協議会ボランティアセンターでの活動を一日間、宇和島市吉田地区の全戸健康調査活動を三日間、実施しました。

ボランティアセンターでの活動は、ボランティアの受け入れのためのオリエンテーションや衛生管理、電話対応などを行い、一日だけではありませんでしたが、ボランティアセンターが実施している支援を知り、地域住民の生活を支える活動の実際に参加することができました。生活再建のための基盤を整えることの重要性和、ニーズと支援を合致させることの難しさを感じました。

宇和島保健所の全戸健康調査は、約二週間で吉田地区3732世帯の健康調査が計画されており、水害後の家屋の被害から、水道やトイレなどの衛生状態、食事や睡眠などの身体状況などを調査するものでした。私たちは医師や保健師とチームを組み、割り当てられた地区の住宅を一軒一軒訪問し

ましたが、地図の上で見ると近距離に見えても実際は少し高台にあたり、住宅と住宅との間隔が離れて



いるお宅があったりと、見知らぬ土地で訪問活動を行う難しさを実感しました。

以前、吉田地区では保健師の地区担当制を長く導入していたことから、保健師活動が根付いている地域であるということを知りました。訪問活動を通して近所の人同士が助け合っている様子を目の当たりにし、地域のコミュニティーがしっかり形成されていることによって自助や共助が発揮され、地域の復興を支えていることを肌身をもって実感しました。